

【総会】

1997年度総会について

1997年度事務局

日本村落研究学会1997年度総会は、1997年10月24日、17時より、新潟県中魚沼郡津南町秋成のグリーンピア津南において開催された。

はじめに長谷川昭彦会長から挨拶があり、続いて議長選出に入り、安原茂会員が議長に選出された。報告事項に入る前に、武田事務局長から、理事の改選について説明があり、理事選挙が行われた。選挙管理委員として、小林一穂会員、松村和則会員、青柳みどり会員が選出され、小林会員から選挙方法等について説明があり、10名連記で投票が終了した。

報告および議題とその内容は、以下の通りである。

1、報告

(1) 1997年度事業報告

1) 理事会開催

武田事務局長から、第10回農村社会学世界会議の日本における2000年開催の可否を決定する拡大理事会が開催されたため、本期の理事会が例年よりも1回多く開催されたことが報告された。理事会は、以下のように開催された。

第一回理事会、1996年10月26日、ハイジアパーク南陽

第二回理事会、1996年1月27日、明治大学大学院510号室

拡大理事会、1996年2月8日、明治大学大学院511号室

第三回理事会、1997年4月26日、弘前大学文京荘研修室

第四回理事会、1997年9月27日、明治大学大学院511号室

第五回理事会、1997年10月24日、グリーンピア津南

2) 研究会開催、後援

①地区研究会

黒柳晴夫理事から、中部・近畿地区研究会の報告がなされた。

中部・近畿地区研究会、1997年6月21日、同志社大学ハリス理化学館

報告者：1、藤村美穂「森林保全の担い手と現代山村ー和歌山県龍神村の事例」

2、秋津元輝「地域生活の拡充と人的ネットワークの形成」

②研究委員会主催の研究会

相川研究委員会委員長から、研究委員会主催の研究会の報告がなされた。

研究委員会主催の研究会、1997年3月12日、JA全中大会議室

報告者：五十嵐太乙「『新しい全国総合開発計画』進捗状況の中間報告ーその理念と農山村の位置づけー」

③共催の研究会

相川研究委員会委員長から日本村落研究学会・地域社会学会共催セミナーについて、報告がなされた。

日本村落研究学会・地域社会学会共催セミナー、1997年10月4日

報告者：1、荒穂豊「農村における住民の地域づくり活動」

2、似田貞香門「住民意志のリプレゼンテーションの回復ー新潟県巻町の原子力発電所建設をめぐる住民投票にみられる〈住民生活と地方自治〉」

④世界古代湖会議の後援

1997年6月21~29日、世界古代湖会議が開催され、本学会は後援団体となった。

琵琶湖博物館の嘉田由紀子会員から、説明と謝辞が述べられた。

⑤関連シンポジウム

武田事務局長から、本学会と関連するシンポジウムのあったことが報告された。

1997年9月6~7日、東北大学大学院情報科学研究科主催「東アジア社会の構造と変動ー伝統・変革・課題」、東北大学青葉記念館

3) 庶務報告

玉庶務担当から、研究通信の発行、会員数等について報告がなされた。

①研究通信の発行

第186号、1997年1月26日

第187号、1997年5月25日

第188号、1997年8月10日

第189号、1997年9月30日

②会員数

昨年度大会時の正会員数	396名
-------------	------

今年度会員増減数	16名増
----------	------

(新入会員25名、退会者7名、逝去者2名)

今大会時の正会員数	412名
-----------	------

その他 購読会員数	5名
-----------	----

(2) 会計報告、会計監査

山下会計担当から会計報告があり、会員からの会費納入を早めに行って貰う必要性が指摘された。会計監査は、前学会事務局小林一穂会員が行い、問題なしとの監査結果が報告された。

(3) 研究委員会報告

相川委員長から、98年度大会テーマ・セッションについては、テーマ：農村の高齢化と福祉、座長：本城昇会員(埼玉大学)、99年度大会テーマ・セッションについては、テーマ：20世紀日本農村の社会システム 座長：池上甲一会員(近畿大学)とすることで、理事

会の承諾が得られた旨、報告された。本城昇会員と池上甲一会員から、テーマの説明ならびに挨拶があった。(詳細は13頁研究委員会報告)

(4) 國際交流委員会報告

嘉田委員長から、2000年開催予定の第10回農村社会学世界会議が、ブラジルで行われることになり、日本開催は見送ることが報告された。理事会としては、今後、本学会の国際的活動を強化する方向を確認しており、次の機会を検討する専門委員会を設置する方向である。

(5) 編集委員会報告

1) 「村研年報」編集委員会報告

庄司委員長から、「年報」第33号の出版を、本大会に間に合わせることができなかつたことが、報告された。「年報」のあり方を見直していく必要があり、「村研ジャーナル」も含めて、中・長期的に検討する作業委員会を設置する方向にあることが報告された。

2) 「村研ジャーナル」編集委員会報告

荒樋編集担当理事から、「村研ジャーナル」の刊行、編集委員会の開催などについて報告があった。また、理事会の承認のもとで、村研ジャーナル編集委員会の体制の改革を進めていることが報告された。

(6) 研究奨励賞選考委員会報告、授賞式

池上委員長から、研究奨励賞の選考経過が説明され、蘭信三会員(京都大学)、藤井勝会員(神戸大学)に決定したことが報告された。長谷川会長から賞状ならびに金一封が授与され、蘭、藤井両会員から受賞の挨拶があった。受賞対象作品は、蘭信三「「満州移民」の歴史社会学」行路社、1994 および藤井勝「家と同族の歴史社会学」刀水書房、1997

(7) その他

武田事務局長から、「村研ジャーナル」刊行補助の申請書を文部省に提出したが助成を受けられなかつたことが報告された。

2、議題

(1) 予算案の提案

山下会計担当から、1998年度予算案が提案され、承認された。

(2) 次期学会事務局について

長谷川会長から、次期学会事務局を、酒井恵真会員(札幌学院大学)、杉岡直人会員(北星学園大学)を中心に北海道でお願いしたいとの報告があり、了承された。酒井会員から、挨拶があった。

(3) 次期大会開催について

長谷川会長から、次期大会事務局を、農村生活総合研究センターにお願いしたいとの報告があり、了承された。同センターの有馬洋太郎会員から、挨拶があった。

(文責、武田共治)